

受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

今回受賞対象となりました理学療法学科・作業療法学科 2 学年では生理学実習、精神障害学（精神医学）、神経障害学 I（神経内科学）の科目担当責任者をしています。これらの科目はすべて神経機能と深く関わっていることから、授業中には神経生理学や神経科学に関する知識の確認も随時行いながら授業を分り易く進めるように心がけています。

講義では板書は用いずにパワーポイントを使用していますが、各スライドの図や文字の見易さへの配慮は勿論のこと、話すスピードに合わせてアニメーション機能も頻回に使用することで、学生の興味を引き出し理解を促すように努めています。

授業の情報を学生と共有するため、毎回の授業で使用するパワーポイントスライドをすべてプリント（A4 用紙にスライド 4 枚分）したものをハンドアウトとして授業開始時に配付しています。ハンドアウトが授業だけでなくその後の学習にも役立つように、各スライドには必要な情報を不足なく盛り込むようにしています。また配付資料の見易さが学習意欲向上や理解促進に影響を及ぼすと考えられることから、スライド作成の際には図・イラスト情報と文字情報をバランス良く配置するように心がけています。

● 学生への要望・アドバイス等

リハビリテーション分野は神経機能と深い関わりを持っており、神経機能に関する知識を正しく理解し獲得することが強く求められます。今世紀に入り神経機能に関する研究の発展は目覚ましく、今後この研究領域から提出される新たな知見やアイデアがリハビリテーションに応用される可能性は極めて高いと考えられます。このため将来のリハビリテーション医療を担う学生の皆さんは、授業で教わる神経生理学や神経科学の知識を確実に理解し吸収するように努めて欲しいと願っています。

神経機能やその関連の科目は難解で分りにくいとのイメージが強いため、一旦苦手意識が生じると後からフォローすることがとても億劫になってしまいます。このため授業で生じた疑問はできるだけ早いうちに解決することが大切です。私の授業では毎回資料を配付していますので、授業中だけでなくその後の復習などで疑問が生じた場合はいつでも質問しに来て頂いて結構です。